

# 国際学部

## ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

国際学部は、次に定める資質を身につけた者に、学士の学位を授与します。

### 1. 国際学のための基礎的・応用的な実践的能力

国際社会において生じ得る問題を自らシミュレーションし、獲得したスキルを活かしてその解決策を論理的かつ主体的に導き出すことができる。

### 2. 国際学的なものの見方・捉え方の基礎

国際社会において求められる英語をはじめとした言語のスキルを基礎から応用までバランスよく習得し、グローバルな場面において積極的に英語で、ICTを活用しながら、相手とコミュニケーションを図ることができる。

### 3. 基礎を土台とした専門分野の発展的な知識

修得した分野別の専門的な知識を国際社会の実際の場で応用的かつ実践的に用いることができる。

### 4. 関心領域と視野の拡大

海外体験を通して高い英語運用能力を身に付け、同時に異文化の受容と自国文化の理解を深めることができる。その上で、英米の歴史・文化、及び英語学の知識やICTスキルを獲得し、英語教育の現場等においてそれらを応用的に活用することができる。

## カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)

国際学部では、次に示す方針に従い、教育課程を編成します。

### <共通教育科目>

日本語と外国語によるコミュニケーション能力、数的処理能力や情報リテラシー及び人と社会や自然との関わり理解、職能開発力を高めるための科目群を設ける。

### <専門演習科目>

1. 国際社会において生じ得る問題を自らシミュレーションし、獲得したスキルを活かしてその解決策を論理的かつ能動的に導き出すことを目的とする科目を配置する。
2. 「Global Studies1・2」ではアカデミックリサーチ、ディスカッション、プレゼンテーション、ロジカルシンキングの方法を学び、それを実践する。「Global Studies3・4」では「国際ビジネス分野」「国際開発学分野」「多文化マネジメント分野」の3つの分野から各学期ごとに1つの分野を選択し、それぞ

れの分野の基礎を学ぶ。「プロジェクト1～4」で興味・関心のある専門分野について深く学びつつ、自分の興味や関心に基づいて課題を見つけ出し、その解決策を4年間の集大成として提案する。

3. 授業は、講義を中心に、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜、組み合わせて行う。
4. 学修成果の評価は、試験、レポート、授業参加度、ディスカッション、プレゼンテーション等により、学修目標に即して多面的、包括的な方法で到達度を判定する。

#### <専門基礎科目>

1. 国際社会において求められる英語のスキルを基礎から応用までバランスよく修得することを目的とし、国際文化専攻は TOEIC600、グローバルスタディーズ専攻は TOEIC730 の目標を達成できるための科目を配置する。
2. 「English Communication1・2」では、コミュニケーション、プレゼンテーション等の非認知能力の基礎を身に付け、「English for Career Development1～5」では、あらかじめ設定した TOEIC スコアの達成を目指し、「Specialized Studies in English1～2」では、各教員の専門領域に関する知識を、英語で深める。
3. 授業は、講義を中心に、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜、組み合わせて行う。
4. 学修成果の評価は、試験、レポート、授業参加度、ディスカッション、プレゼンテーション等により、学修目標に即して多面的、包括的な方法で到達度を判定する。

#### <専門基幹科目>

1. 国際社会に広がる文化的多様性の現状を本質的に理解する際に必須となる専門的知識を基礎から応用まで修得することを目的とする科目を配置する。
2. グローバルスタディーズ専攻は、「ビジネス」「国際開発学」「言語学」の3分野を学び、国際文化専攻は「異文化」「宗教」「ダイバーシティ」等を体系的・網羅的に学ぶ。
3. 授業は、講義を中心に、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜、組み合わせて行う。
4. 学修成果の評価は、試験、レポート、授業参加度、ディスカッション、プレゼンテーション等により、学修目標に即して多面的、包括的な方法で到達度を判定する。

#### <専門関連科目>

1. 英米の歴史・文化・文学、及び英語学の知見や ICT スキルを通して国際社会に対する理解を深め、英語の教員免許状取得に必要な科目を配置する。
2. 英語教員を目指すことができる基礎力を身に付けるために、「異文化」「語学」「コミュニケーション」「英米の歴史と文化」「ICT スキル」を体系的、網羅的に学ぶ。
3. 授業は、講義を中心に、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜、組み合わせて行う。
4. 学修成果の評価は、試験、レポート、授業参加度、ディスカッション、プレゼンテーション等により、学修目標に即して多面的、包括的な方法で到達度を判定する。

## <留学・フィールドワーク科目>

1. 海外体験を通して、英語(外国人留学生の場合は日本語)を使用したコミュニケーション活動の実践、異文化理解・自国文化理解を促すことを目的とする科目を配置する。
2. 海外体験を通して、「日常のコミュニケーション能力」「異文化理解・異文化体験」「非認知能力」「チャレンジ精神」「やり抜く力」等を身に付け、事前学習で、危機管理や国や民族の特性等について学ぶ。同時に、英語(外国人留学生の場合は日本語)運用能力を高める。
3. 授業は、講義を中心に、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜、組み合わせて行う。
4. 学修成果の評価は、試験、レポート、授業参加度、ディスカッション、プレゼンテーション等により、学修目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

## アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

国際学部では、日本と世界を取り巻く国際社会のありかたについて多角的・多面的に考え、自ら問題点を見つけ出し、それを解決する方法を、日本語と英語で広く発信することができる高度国際人の養成を目指しています。

- (1)英語を駆使して国際的に活躍したい者
- (2)世界が抱える諸問題を多角的・多面的に考えることのできる者
- (3)世界と日本の懸け橋になりたいと志し、行動することができる者

国際学部では、複数の学問分野をまたぐ国際的な事象を深く研究します。特に、英語をツールとして、グローバル(Global+Local)な視点から、諸事象を主体的・分析的・批判的に考察し、その成果を他者と共有します。

また、グローバルな場面で、適切な判断と具体的な行動を取るためのベースとなる知識やスキルを育成するとともに、国内外で多様な経験を積み上げます。

そのためには、英語と日本語の言語運用能力のみならず、地理歴史、公民、数学、理科等の各科目の知識を持ち、それらの基本的な内容を理解していることが必要です。

これらの力は、国際学部で学ぶためにぜひ身につけておいてもらいたい能力です。